

文部科学省
令和2年度「次世代のライフプランニング教育推進事業」

～ワーク&ライフ・デザイン教育プログラム～

第五回



Sourire

1. 男女共同参画社会と'ライフキャリア'
2. ライフイベントとジェンダー
～「人生双六データ資料」から考えてみましょう
3. これからの生き方 = ライフキャリア
を考える



1. 男女共同参画社会と 'ライフキャリア'

◎ 社会の急速な変化

○ グローバル化…人・もの・情報等地球全体がつながる

=> 多様な価値観を持った人と関わっていく

○ 少子高齢化…'人生100年時代'

=> 社会を支えるしくみを変えていく必要

◎ 社会変化に応じて個人の生き方も変わっていく

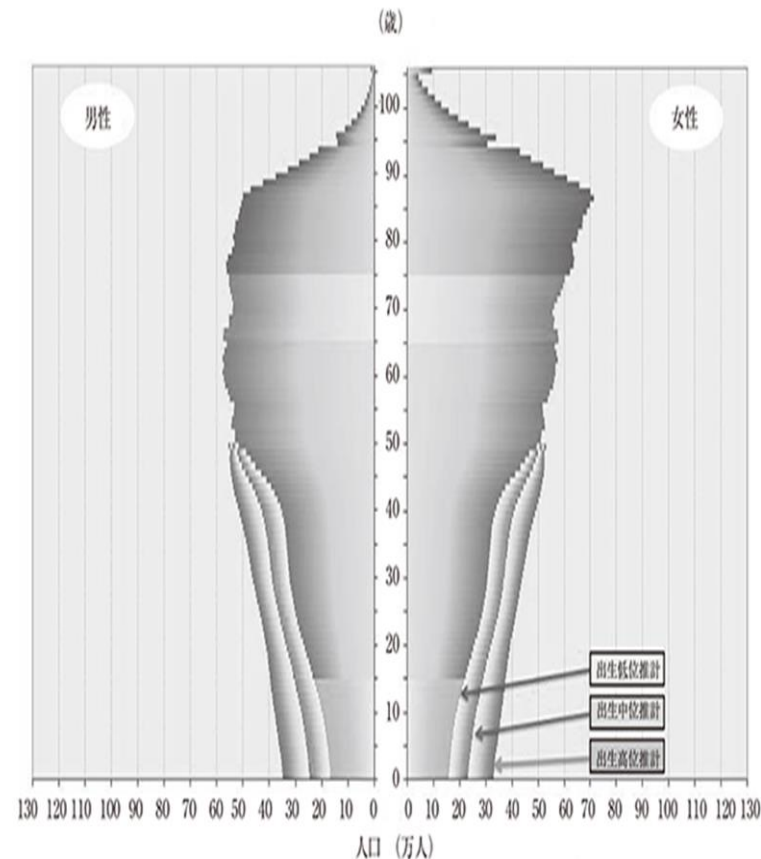
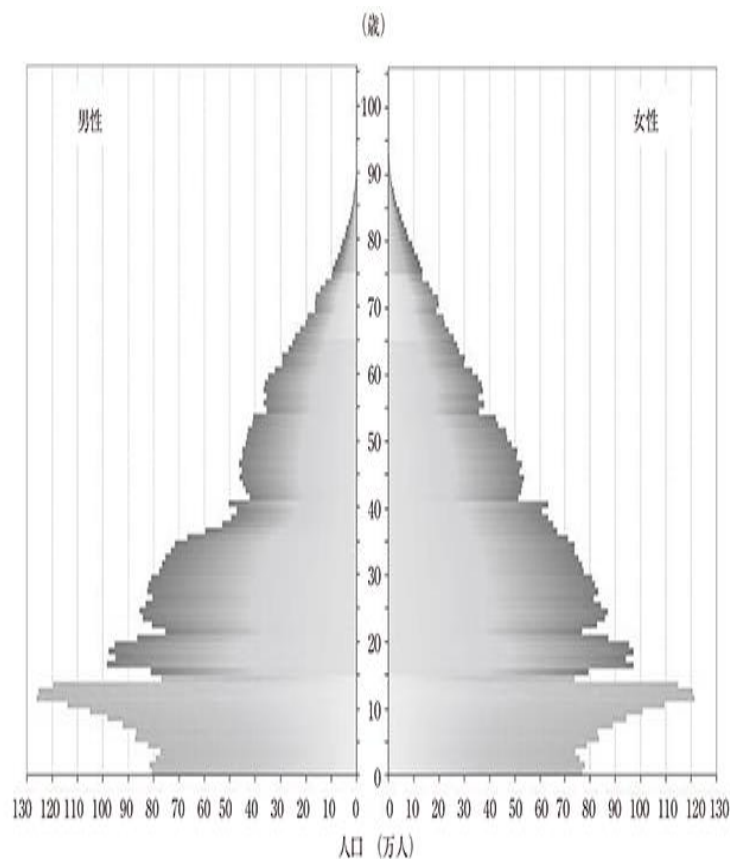
=> 変化・リスクに対応する強さを身に付ける

→ これまでの価値観（思い込み）にとらわれずに
生き方を考える必要

1960年



2060年(推定)



資料出所：国立社会保障・人口問題研究所
「人口統計資料集」(2012年版)

資料出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の
将来推計人口(平成24年1月推計)」

【問】 「夫は外で働き，妻は家庭を守るべき」

という考え方について・・・

- a.賛成
- b.どちらかといえば賛成
- c.わからない
- d.どちらかといえば反対
- e.反対

<選んだ理由も書いてみましょう>

○1999年 男女共同参画社会基本法

☆男女共同参画社会とは・・・男性も女性もすべての個人が、喜びも責任も分かち合い、その能力・個性を十分発揮することができる社会

○2015年 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）

○2015年 第4次男女共同参画基本計画

・目指すべき社会 = ③男性中心型労働慣行等の変革等を通じ、仕事と生活の調和が図られ、男女が共に充実した職業生活その他の社会生活および家庭生活を送ることが出来る社会

○固定的性別役割分担意識（第4次男女共同参画基本計画）

男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにも関わらず、「男は仕事・女は家庭」、「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等のように、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分ける考え方のこと。

例：「夫は外で働き，妻は家庭を守るべき」

賛成：伝統的（固定的） / 反対：平等主義的

- ステレオタイプ = 固定観念・紋切型
ある集団（性別・国籍・人種・・・）に共通して
もつと「思いこまれている」特徴
- ・ 利点 = 思考の節約
→すばやく人を判断する際の手がかり
→情報過多な現代社会に必須
- ・ 一方、単純化され柔軟性を失いやすい
→集団内でその特徴と一致しない人がいても一致するものと
みなされる／例外として扱われ、ステレオタイプは維持される

○同質性と異質性

- ・ 同じカテゴリーのなかでは、実際以上に似ているように知覚される（同質性）
- ・ 異なるカテゴリー間では、実際以上に差が大きいと知覚される（異質性）

→グループに分けられると、グループ間の差はより大きく認知される

差があるからグループか
グループがあるから差がみえるのか？

● 選択的認知 = 自分の信念に一致する情報を選択的に取り入れる

○ 予言の自己成就

- ・ 実験…教師にクラスのなかで「学力が伸びる子」の名を伝える（実は無作為）

⇒ 1年後本当に成績が伸びる なぜ？

⇒ 期待された生徒に対する関わり方の「違い」

周囲の『期待』が人を育てる

○「女性は数学が苦手？」

- ・ 実験 (Spencer, Streele & Quinn, 1999)

数学のテストを行う際の教示

- ① 「このテストには性差が見られない」
- ② ①の教示はしない(一般的な教示のみ)
- ・ 結果：①の群の結果は男女差が見られない
②は女性の方が成績が低い

ステレオタイプ脅威 ← ステレオタイプに添う心理
何も言わないだけでなく、
「性差はない」と改めて示すことが必要

● 「過去の経験や習慣、環境から生じる、自分自身が気づかずに持つ偏った見方・考え方」


(行動経済学者ダニエル・カーネマン)

⇒直感,自動的,無意識的な思考が間違いを犯しやすい

【例】アメリカトップ5オーケストラの団員選抜

- 1970年代女性奏者割合=5%、2000年代=25~45%
- 選抜方法の変更 推薦制⇒公募制かつブラインドオーディション (ついたてをおき姿は見えず、音だけで審査)

どのようなアンコンシャス・バイアスがありますか？



2. ライフイベントとジェンダー ～「人生双六データ資料」から考えてみましょう

- FACT12-3 : 男女格差国際ランキング
ジェンダー・ギャップ指数 (Gender Gap Index)
121位 / 153か国 (2019年)
- FACT 0 : 性別役割分担意識
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」
賛成 < 反対

考えてみましょう：

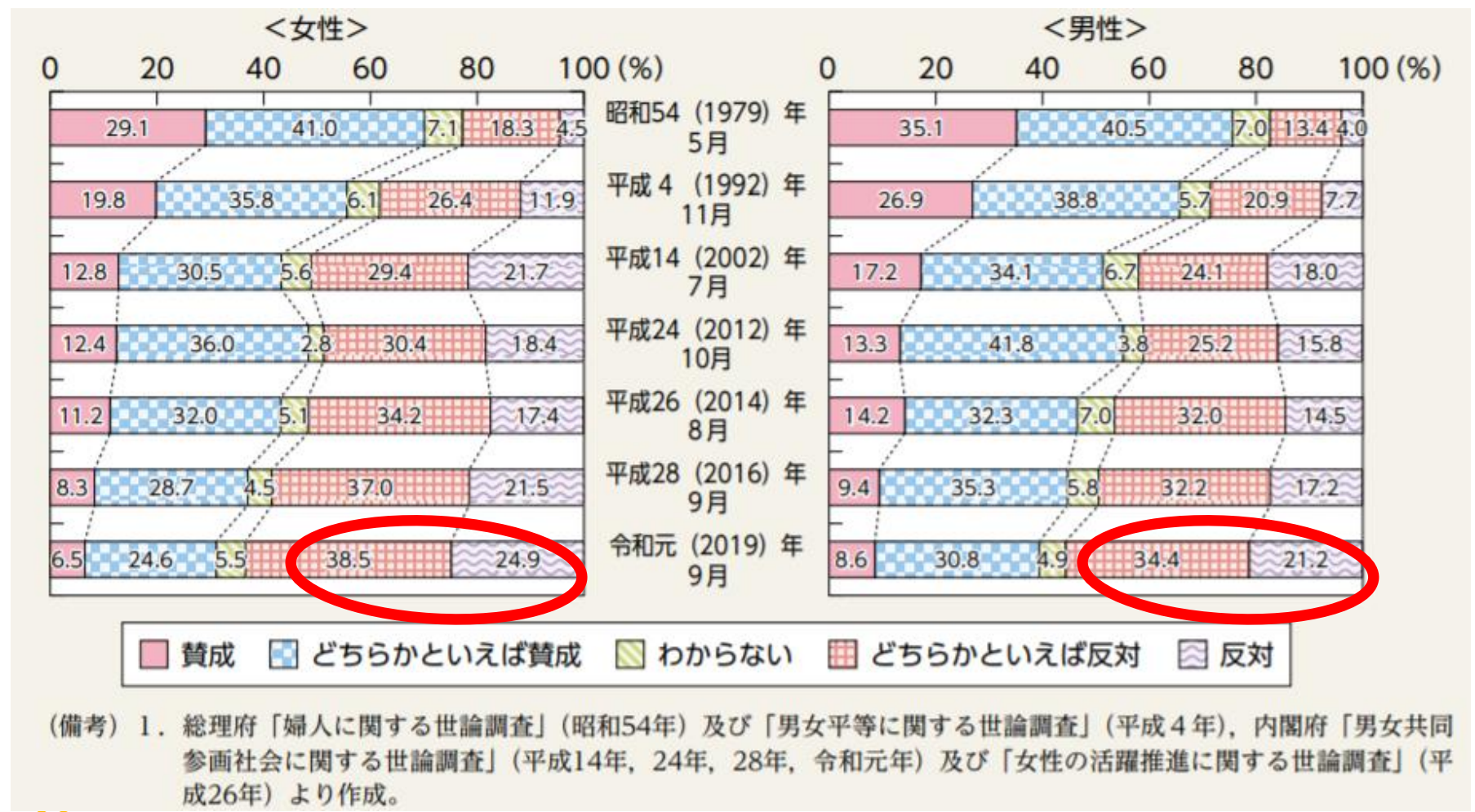
性別役割分担意識は反対する割合が増えているのに
なぜ日本は国際的にみて男女格差が大きいのでしょうか？



0. 性別役割意識

FACT

◆「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という意識の変化



出所：内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」



性別役割分担意識に賛成する人は男女とも減少、賛成<反対



12-3. 男女差

FACT

◆日本の男女格差(国際ランキング)

GGI(Gender Gap Index) ジェンダー・ギャップ指数
121位／153か国 (2019年) (2018年:110位/149か国)

世界経済フォーラム(WEF)が2019年に発表。女性の地位を「経済(労働力率、管理職に占める比率、専門職に占める比率等)」「教育(識字率、初等・中等・高等教育の各在学率)」「政治(国会議員に占める比率、閣僚の比率等)」「保健(新生児の男女比率、健康寿命)」の4分野から算出。

1位(アイスランド)、2位(ノルウェー)、3位(フィンランド)など北欧の国々のほか、5位(ニカラグア)、9位(ルワンダ)なども上位に



諸外国に比べて日本が遅れているのは政治と経済の分野

- ライフイベント・・・人生における(大きな) できごと【人生双六データ資料】
 - ・ 進路選択 (FACT 1,2)
 - ・ 就職 (FACT 3-1,3-2,3-3)
 - ・ 結婚 (FACT4-1,4-2)
 - ・ 仕事と家事 (FACT5,6)
 - ・ 出産・育児 (FACT8,9,10)
 - ・ 介護 (FACT16)

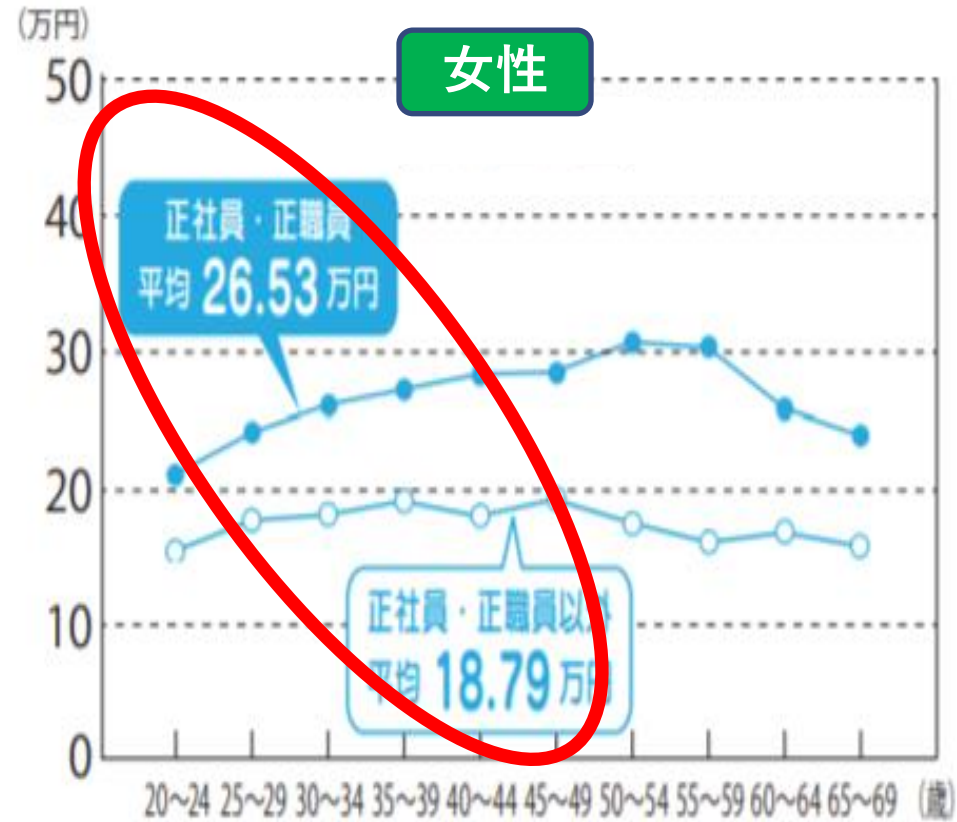
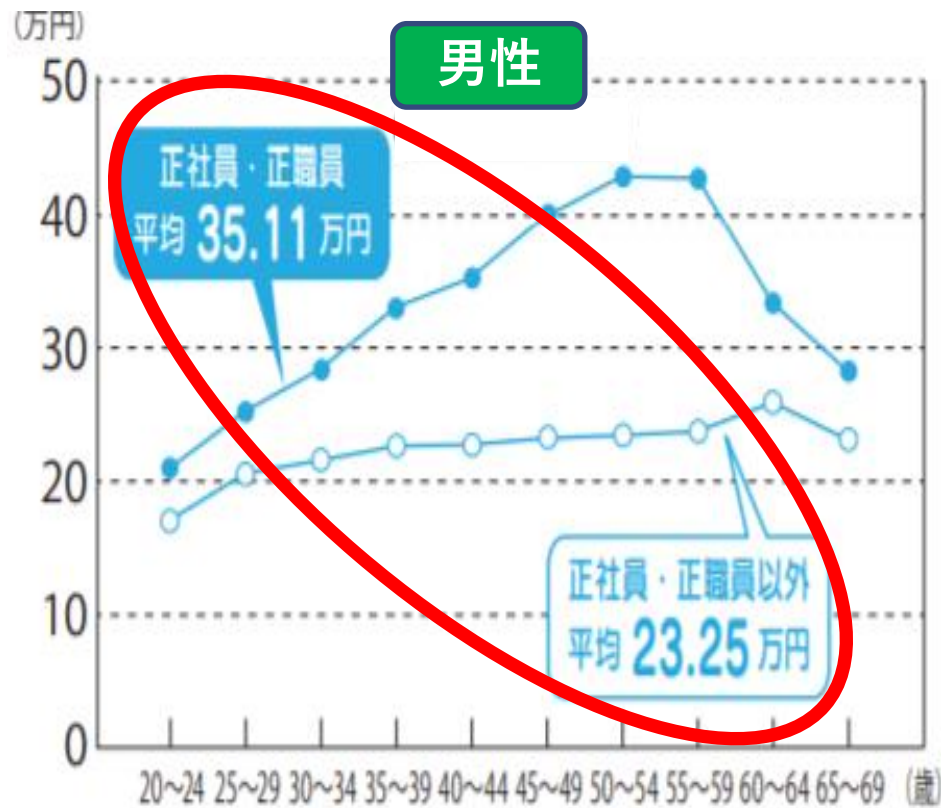
考えてみましょう：
男女共同参画社会における【生き方・働き方=キャリア】には
どのような課題がありそうですか？



3-2. 働き方

FACT

◆ 働き方と性別でみた収入(月収)



出所：厚生労働省「賃金構造基本調査」2018年、神奈川県「meet me book」2020年



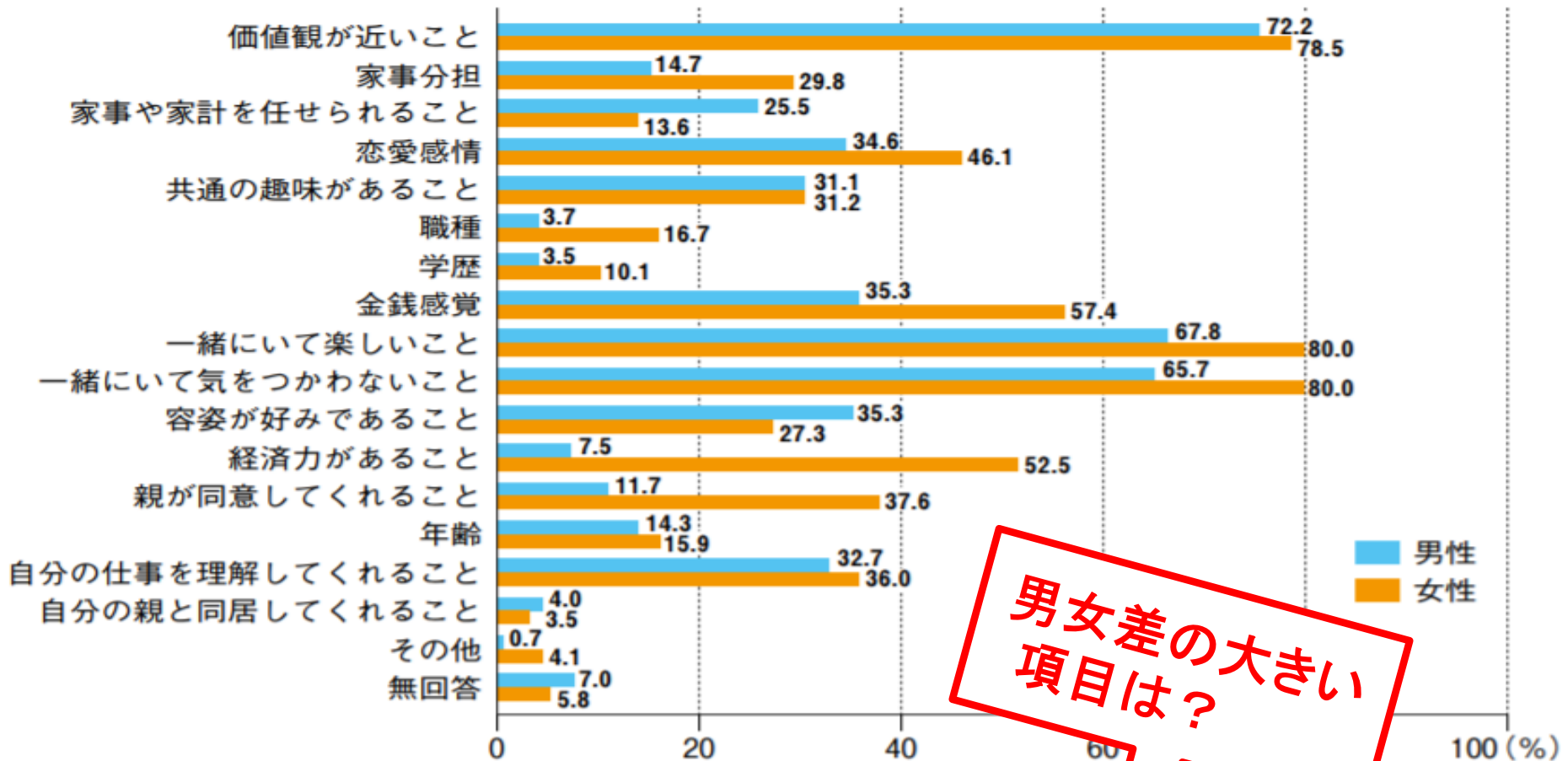
働く期間に定めのない労働契約で働く「正規雇用」とそれ以外の「非正規雇用（契約社員、派遣社員など）」の収入には、差がある。性別による差も。生涯で見るとその差は大！



4-2. 結婚

FACT

◆ 結婚相手に求める条件 (20~30代)



男女差の大きい項目は？

出所：内閣府「結婚・家族形成に関する意識調査」報告書 2014年



男女とも、「価値観が近い」「一緒にいて楽しい、気がつかわない」と精神的なことの占める割合が高い

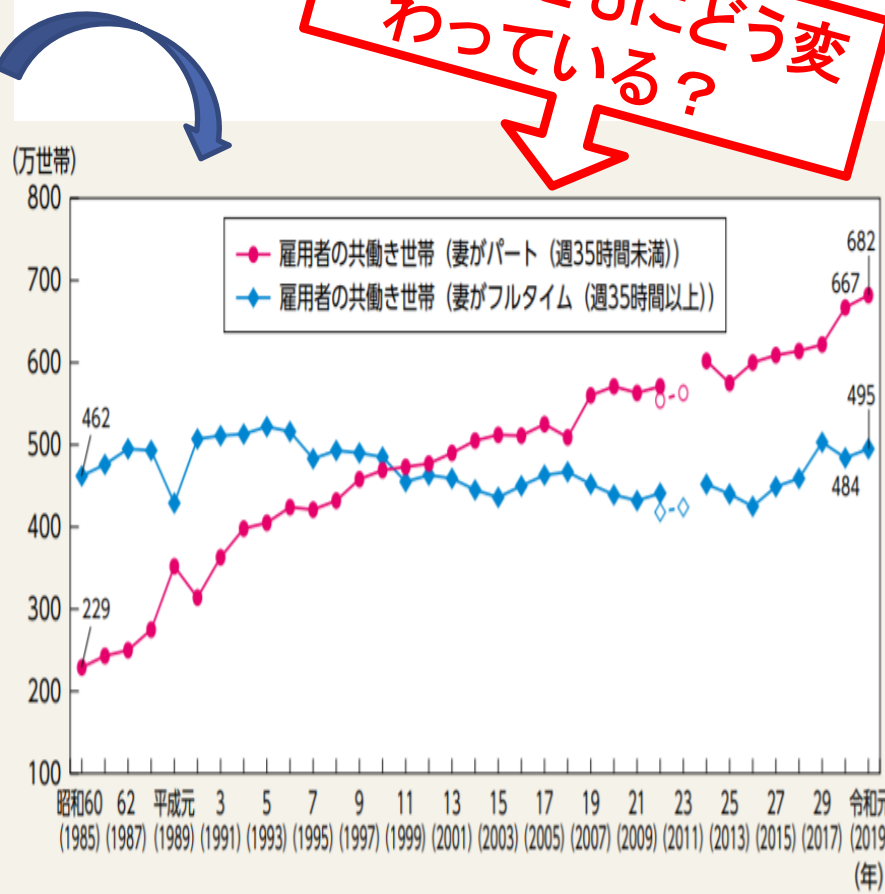
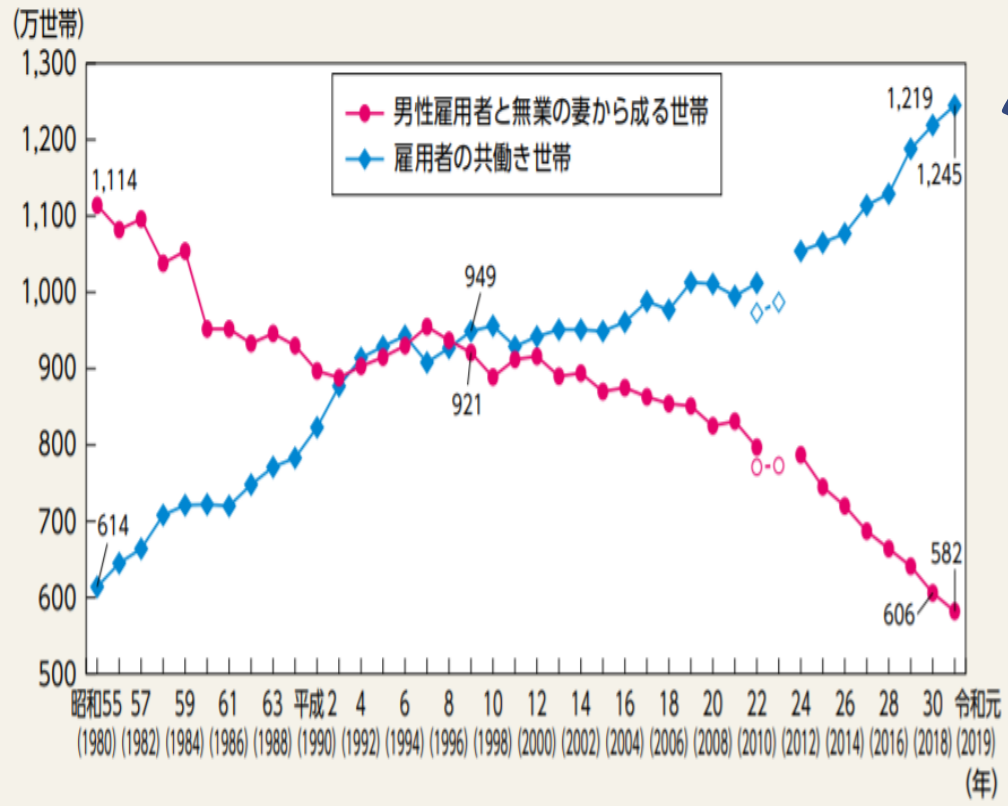


5. 共働きと片働き

FACT

◆ 増え続ける共働き世帯

時代とともにどう変わっている？



出所：内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」



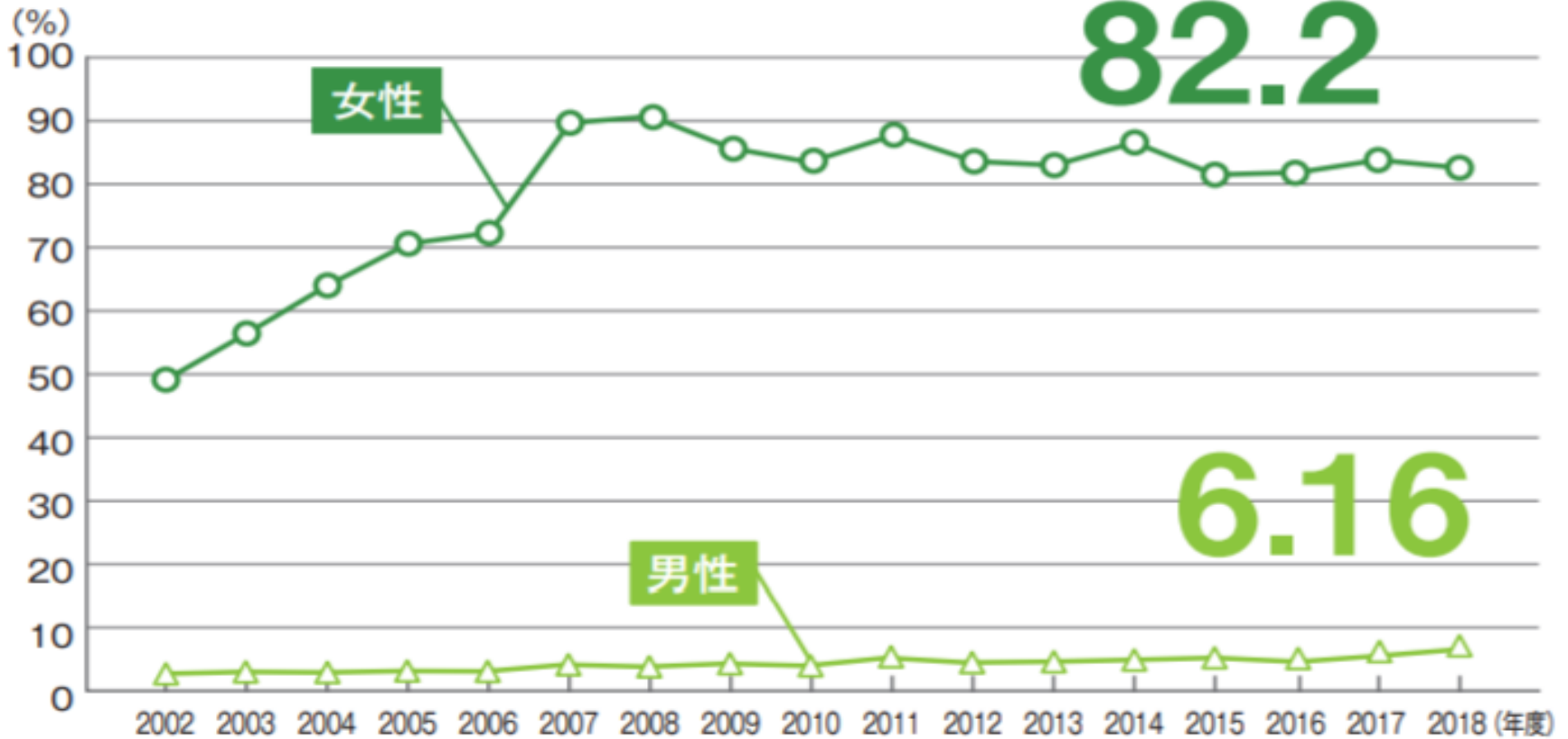
2000年代以降、片働き世帯は減少、共働き世帯が大きく増加
ただし、増えているのは、妻がパートで働く世帯



10. 育児休業

FACT

◆ 育児休業取得率の推移



出所：厚生労働省「雇用均等基本調査」各年度、神奈川県「meet me book」2020年



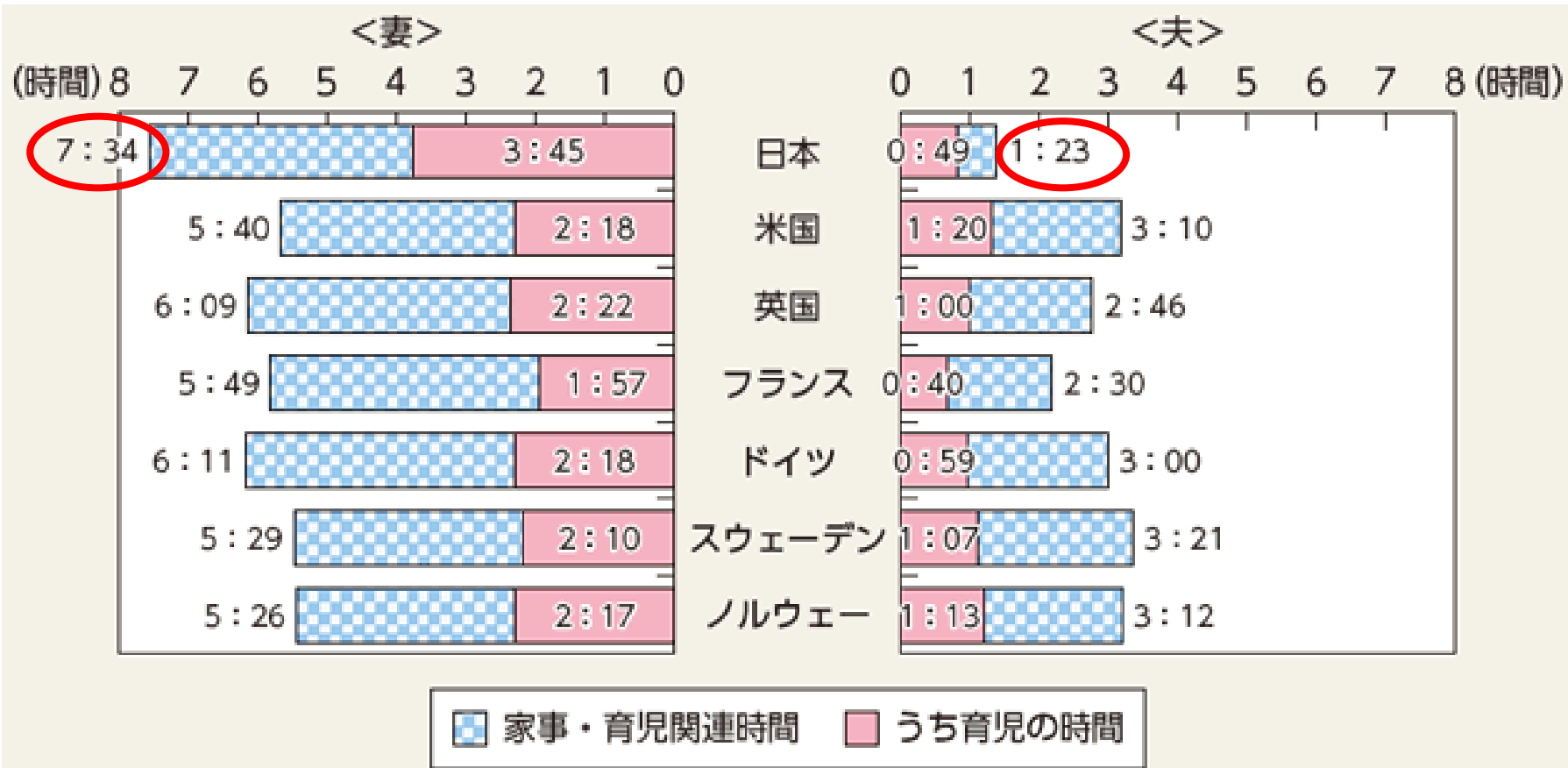
男性の育児休業取得率は公務員を中心に上昇傾向、一方、女性は1年近く取得するのに対して男性は1か月未満に



11-1. 家事/育児、家計の分担

FACT

◆ 夫と妻の家事・育児時間 (国際比較)



出所：内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」




他の先進国と比べて少ない日本の夫の家事・育児時間。
妻が有業（共働き）でも、夫より担う時間は長い

○考えてみましょう：

- ・ 「人生双六データ資料」からライフイベントに関わるデータを一つ(以上)取り上げ、ライフイベントにおいて男女がおかれた状況・特徴について考えてみましょう
- ・ 男女共同参画社会における【生き方・働き方＝キャリア】にはどのような課題がありそうですか？

○話し合ってみましょう：

- ・ 話し合っ気づいたこと



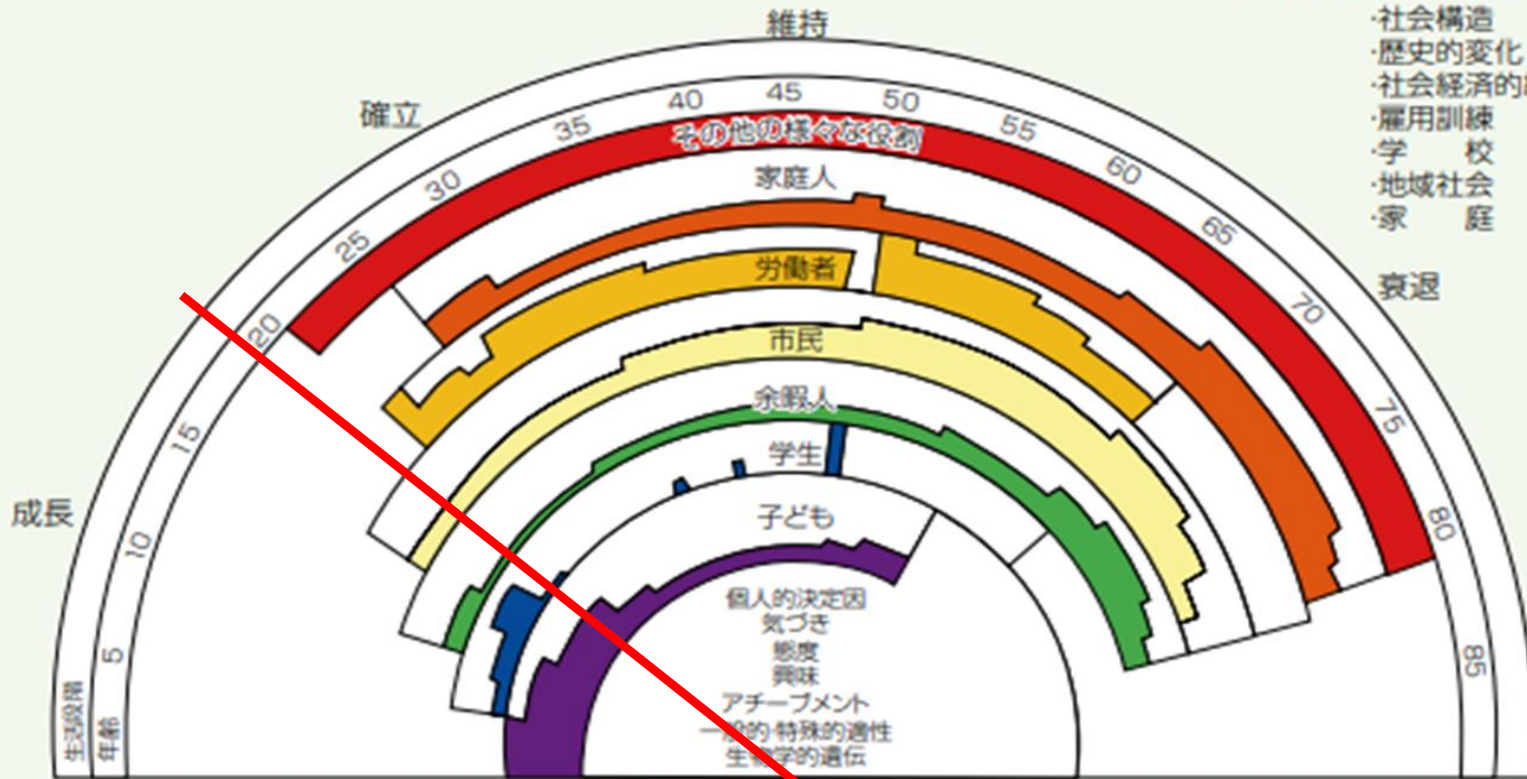
3. これからの生き方 = ライフキャリアを考える

ライフキャリアレインボー(Super,D.E.)

ライフ・キャリアの虹

状況的決定因(間接的-直接的)

- ・社会構造
- ・歴史的变化
- ・社会経済的組織・状況
- ・雇用訓練
- ・学 校
- ・地域社会
- ・家 庭



— ある男のライフ・キャリア —

「22歳で大学を卒業し、すぐに就職。26歳で結婚して、27歳で1児の父親となる。47歳の時に1年間社外研修。57歳で両親を失い、67歳で退職。78歳の時妻を失い81歳で生涯を終えた。」D.E.スーパーはこのようなライフキャリアを概念図化した。

出典 文部省「中学校・高等学校進路指導資料第1分冊」平成4年

ライフキャリア = 生涯にわたる役割の連なり

• 人生における「役割」 = ライフ・ロール

①子ども ②学生 ③余暇人 ④市民 ⑤労働者 ⑥家庭人

→人は人生の各時点で、複数の役割を担っている。

• キャリアサイクル

1 成長：～14歳

2 探索：15～24歳

3 確立：25～44歳

4 維持：45～64歳

5 衰退：65歳～

= 役割の重みづけは人生の時々で変わっていく

• あなたは、今、どんな役割に時間や気持ち・エネルギーを注いでいますか？

• 将来は？どんな生き方をしたいですか？

= どんなふうに「キャリア」を「デザイン」しますか？

○人生の4つの要素 = 4つの 'L'

- ・ 労働・仕事(Labor)
- ・ 学習(Learning)
- ・ 余暇(Leisure) = 仕事以外の活動・地域活動等
- ・ 愛(Love) = 家族・子育て

⇒それぞれの'キルト (パッチワーク)'を意味ある全体に「**統合**」する

1. グローバル/ローカルな視点から仕事を見つける
⇒ 広い視野に立ったキャリア選択をする
2. 人生を意味ある全体のなかに織り込む
⇒ 一人が複数の役割のバランスをとり「統合」する
3. 家族と仕事の間を結びつける
⇒ 男女の共同共生をめざす

4. 多様性を活かす

⇒あらゆる'違い'を受け入れ多様性に
価値を置く

5. 個人の転機と組織の変化に対処する

⇒個人の人生の変化、企業・組織の転機
に対処できるようにする

6. 人生の意味、目的を探求する

⇒仕事の喜びや意義を大切にする

キャリアプラン～4領域における「10年後の自分」

<p>【仕事】 どんな人と？ どんな仕事をしている？</p> <p>様々な活動をしている人と 様々な価値観の人と 複数のプロジェクトをしている</p>	<p>親兄弟やパートナーとの 関わりは？子どもはいる？ 【愛・家族】</p> <p>子どもが生まれて パートナーと子どもと 3人の生活</p>
<p>仕事に関する学習・資格取得 料理教室に通いたい 着付けや茶道など日本文化に関する 習い事もやってみたい</p> <p>学んでいること、向上させたい力 興味・関心あること、 やってみたいことは？</p> <p>【学習】</p>	<p style="text-align: right;"><記入例></p> <p>週末は仕事を忘れて 自然の中で楽しんでいる 自分の時間も大切にしたい ダイビング仲間が欲しい キャンプとかアウトドア</p> <p>好きなこと、 好きな時間は？ どんな友達・仲間と？ 【余暇・地域】 やってみたいことは？</p>

キャリアプランに向けて～「統合」を意識してみましよう

○人生の「4つの要素=L」における「10年後の自分」に「統合」の視点を加えてみましょう

○領域が隣り合う・重なるところ・・・

「仕事」と「愛・家族」

「仕事」と「学習」

「愛・家族」と「余暇・地域」

「学習」と「余暇・地域」

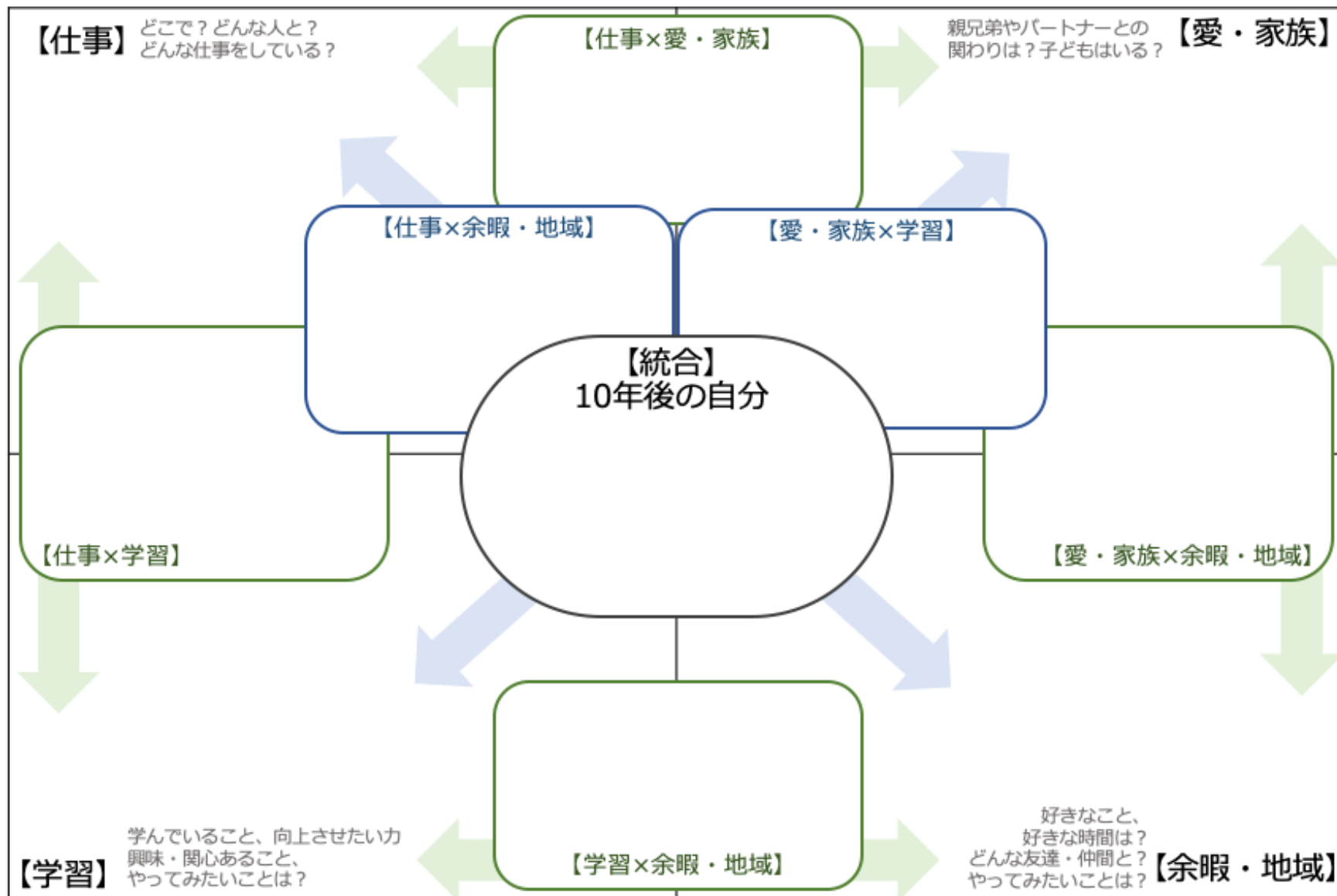
⇒具体的に、どのようなことが考えられますか？

※社会人の方の講演を思い出しながら考えてみましょう。

※「共働き家庭での体験」でも意識してみましよう

⇒みなさん自身のキャリアも膨らませていきましょう

キャリアプラン～4領域の「統合」



- 「統合」＝個人のキャリアを仕事だけでなく、
人生の役割全体との「バランス」から考える
- 「社会共通の『善』」＝仕事を自分の充足だけでなく、
社会にも役立つ意義を考える

○「統合」に向けて・・・

- ・これまでの価値観・思い込みにとらわれない

例：男女の役割（男は仕事/女は家庭）

⇒共働き・男性育休

- ・社会の変化をとらえる、優先順位、具体的な工夫も
大切



**THANK YOU
FOR
YOUR
LISTENING**